

# MailBox

メールボックス

## 経済同友会出向者からの近況報告 #2



From : 永谷 太一郎

復興庁 インフラ構築班兼企業連携推進室  
政策調査官

To : 経済同友会

Subject : **私が歩んだ復興・創生への道**

私が小学5年生だった1995年に、阪神・淡路大震災を神戸の郊外にある住宅地で経験しました。電気が復旧しテレビを見るまでは何が起きているのか分からず、夜が明けて表に出ると、舗装は隆起し、電柱は根元から折れ、電線でかろうじて立っていました。朝やろうとした宿題をやっていない。今日は先生に許してもらえらるだろうと思いつつ登校準備をしたぐらい、正常性バイアスが働いていたのを覚えています。

大学では、建築空間が人を引きつける魅力にあこがれて建築学を専攻し、都市計画を学びました。ものづくりのつながりで2009年に東洋エクステリア(現LIXIL)に就職し、一方で週末には建築士の勉強をし、11年に一級建築士になりました。その年、東日本大震災が発生したのです。

会社のテレビで津波が押し寄せる映像を中継で見て、何か建築士として活かせることはないかと考えましたが、その後の会社合併に伴う業務やタイ洪水の生産対応などで、月日が過ぎていきました。

4年後、思わぬところから抜擢され、復興庁へ出向となりました。復興庁での主な業務は、道路の災害復旧および整備の推進、避難指示区域への帰還に必要な広域インフラ等の災害復旧推進、企業連携の推進となります。当初は役所の用語や習慣に慣れず、今までの経験や知識が業務で活かせるのか、役に立っているのか等自問自答しながら日々の業務に没頭していました。いろいろと苦労はしましたが、たくさんの方の助けを借り、今日までやってこられました。この場を借りて感謝したいと思います。

業務で特に苦労した事案は、福島県道吉間田滝根線の改良事業で、県道では初となる国による代行施工を実施することでした。国、県とのいく度にも及ぶ調整を行い、復興大臣による決裁を経て、ようやく代行指定することができました。現在は、国によるトンネルの施工をしています。

企業連携の推進業務では、民間出向者18人が本務とは別に兼務となり、新産業の創出につながる新たな事業の支援や、支援を希望する大手企業とのマッチングなど、民間での経験を活かし被災地企業への支援を行っています。

自らが主体となり企画から実行まで行ったものとして、昨年6月に開催された、復興庁主催「東日本大震災5周年復興フォーラム」での「産業となりわいの再生」分科会があります。

東京で行うからには、大手企業の今までの取り組みを発信し、これからの取り組みを後押しする場(日ごろの協力に対する感謝を含めて)にしてはどうかと立案したところ、採用されました。その後は、企業への出展依頼、展示内容の調整、さまざまな取りまとめなど多岐にわたりました。その中で、建築の知識を活かして会場の構成も担当し、レイアウトや展示方法、動線計画について模型を製作し検討しました。模型を製作したことにより、メンバーとイメージが共有でき、大いに役立ちました。当日は安倍晋三首相や高木毅復興大臣(当時)にも来場いただき、入念に準備したかいもあり、大きな混乱もなく終えることができました。

復興はまだ道半ばですが、今月末をもってLIXILに戻ります。復興・創生期間とともに復興庁が廃止される2021年には、歴代の出向者が集まって、それぞれの代での苦労話などを言い合いながら、東北を一周してみたいものです。



模型による検討(1/50スケール)



安倍晋三首相と女性企業家との対談